

◎リポクリン錠 [内] <2019.3 販売中止>

【重要度】★★ 【一般製剤名】クリノフィブラート *clinfibrate* 【分類】脂質異常症治療薬 [フィブラート]

【単位】◎200mg/錠

【常用量】600mg/日

【用法】分3

【透析患者への投与方法】減量の必要はないが、横紋筋融解症に注意して慎重投与 (1)

【その他の報告】尿中排泄率は非常に低いため他のフィブラート系薬剤に比し安全度は高いと考えられ、減量の必要性はないと思われる (5)

【PD】600mg/日で安全に治療できる (Nishizawa Y, et al: *Kidney Int* 44: 1352-9, 1993)

【保存期 CKD 患者への投与方法】減量の必要はないが、横紋筋融解症に注意して慎重投与 (1) 腎障害患者で HMG-CoA 還元酵素阻害薬併用は横紋筋融解症が現れやすいため原則禁忌 [治療上やむをえない場合のみに併用] (1)

【特徴】血清脂質の低下作用を有し、高脂血症患者で血清中の LPL, LCAT 活性を亢進. VLDL, LDL-C, TG を低下させ, HDL-C に対しては増加作用を示す. 高脂血症のうち TG 増加タイプに効果がある.

【主な副作用・毒性】横紋筋融解症, 肝機能障害, 味覚異常, 頭重感, めまい, 白血球減少, CK 上昇, 皮膚障害, 口内炎, ほてり, 顔面浮腫など

【吸収】食事により Cmax は低下するが AUC は変わらない (Li JK, et al: *Int J Clin Pharmacol Ther* 51: 672-677, 2013)

【tmax】4~6hr (1)

【代謝】ほとんど代謝されない (1)

【排泄】主として糞中に排泄され, 投与量の 1%以下が尿中に排泄 (1)

【t1/2】10hr (1)

【蛋白結合率】99% (1)

【Vd】資料なし (1)

【MW】468.58

【透析性】蛋白結合率が高いため透析では除去されにくい (5)

【TDM のポイント】TDM の対象にはならない. 定常状態の血中濃度 20 $\mu\text{g/mL}$ (1) 薬物動態に関する報告が少ない (5) 【O/W 係数】0.929 [1-オクタノール/水系, pH7.0] (1) 【pKa】3.3, 4.5 (1)

【相互作用】スタチン併用で横紋筋融解症のリスク増 [特に腎障害患者] (1)

【更新日】20190319

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。